

(電子メール施行)
農技第1323号
令和3年7月21日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予報第3号を發表します。

令和3年度病虫害発生予報 第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	やや多	平年並
	紋枯病	平年並	平年並
	縞葉枯病	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	やや多	平年並
	セジロウンカ	やや多	平年並
	トビイロウンカ	平年並	少
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
	イネツトムシ	平年並	やや少
	コブノメイガ	やや少	少
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
ナシ	黒斑病	やや少	やや少
	黒星病	平年並	やや少
	シンクイムシ類	平年並	平年並
	ハマキムシ類	平年並	平年並
	ハダニ類	平年並	やや少
	カメムシ類	平年並	平年並
ブドウ	べと病	やや多	やや多
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	平年並
	ハイマダラノメイガ	やや多	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(7月17日から8月16日までの天候見通し)

令和3年7月15日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(07/17~08/16)		
2021年07月15日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 07/17~08/16	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
1週目 07/17~07/23	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 07/24~07/30	気温	2週目は、平年並の確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 07/17~08/16	
		1週目 07/17~07/23	
		2週目 07/24~07/30	
		3~4週目 07/31~08/13	
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 07/17~08/16	
	近畿日本海側	向こう1か月 07/17~08/16	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 07/17~08/16	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】

- (1) 予報の内容
(2) 予報の根拠

発生量：やや多

ア 7月中旬の予察圃場^ほでは発病株率7.0%（平年値3.0%）の発生が確認されているが、その程度は軽い。現地調査でも発病株率1.9%（同1.6%）と平年並の発生が確認されている。

イ 箱剤の残効が切れてくる6月下旬～7月上旬にかけて、BLASTAM（いもち病発生時期予測システム）による葉いもち感染好適条件が県内アメダス地点において、多数出現したことから県内各地で葉いもちが出現する可能性がある。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は太平洋側で平年並～多く、日本海側で平年並、日照時間は平年並と発病に好適である。加えて、7月17日に梅雨明けしたが、その後、にわか雨も繰り返し発生しており、今後、病勢伸展する可能性が高い。

エ 本病については、7月9日付で病虫害発生予察防除情報第3号を発表している。詳細については、これを参考にすること。

<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/322>

- (3) 防除上の留意点

ア 本病が発生している場合は、薬剤防除を行う。穂いもちを効果的に防除するためには出穂前の防除が原則であるため、防除時期を逃さないように注意する。

イ 置き苗は、いもち病の伝染源になるため、速やかに処分する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、耐性菌管理の観点から農薬の選定にあたっては、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容
(2) 予報の根拠

発生量：平年並

ア 7月上中旬の調査で本病の発生は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は太平洋側で平年並～多く、日本海側で平年並と予想されており、発生は平年並で推移すると考えられる。

3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容
(2) 予報の根拠

発生量：平年並

ア 7月中旬の予察圃場では発生を確認していないが、現地調査では一部地域で発病が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、本病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの増殖が進むと考えられ、一部地域でやや多い発生になる可能性があるが、県全体としては、平年並の発生で推移すると考えられる。

(3) その他

今年度の第1世代虫(コムギ採集個体)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所ホームページを参照する。

(http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/uploads/2021/06/ヒメトビウンカ保毒虫検定結果_2021.pdf)

4 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

ア 予察圃場における7月上旬のすくい取り調査(10回振り)では、加西市で成虫1.0頭(平年値2.4頭)であり、朝来市で成虫2.5頭(平年値1.1頭)、幼虫2.0頭(同2.4頭)であった。同時期の現地調査では、広い範囲で発生が確認されており、普通期水稻での発生圃場率は18.2%(同23.5%)と平年並の発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進み、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本田における初期発病株(葉色が薄くなり巻いて垂れ下がるゆうれい症状を現す)は、媒介虫である本種の新規ウイルス獲得源となり、後期発病(出穂異常)を助長するので、速やかに抜き取る。

イ 初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

5 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容

発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置している予察灯の6月～7月2半旬の合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で6.0頭(平年値7.5頭)、南あわじ市(淡路農技内)で16.0頭(同19.3頭)、朝来市(北部農技内)で0頭(同1.4頭)であった。

イ 予察圃場(朝来市)における7月上旬のすくい取り調査(10回振り)では、成虫0.5頭(平年値0.2頭)であった。同時期の現地でのすくい取り調査でも、成虫0.8頭(同0.4頭)、幼虫0.2頭(同0.2頭)と平年並の発生であった。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進み、やや多い発生になると考えられ

る。

(3) 防除上の留意点

ア 多発すると、茎葉の退色やすす病の発生など被害が生じることがあるので、適期に防除を行う。

イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

6 【セジロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置している予察灯の6月～7月2半旬の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で6.0頭（平年値0.7頭）、南あわじ市（淡路農技内）で4.0頭（同10.6頭）、朝来市（北部農技内）で5.0頭（同2.0頭）であった。

イ 予察圃場（朝来市）における7月上旬のすくい取り調査（10回振り）では、成虫3.5頭（平年値1.2頭）、幼虫1.5頭（同2.7頭）であった。同時期の現地でのすくい取り調査でも、成虫0.8頭（同0.5頭）、幼虫0.2頭（同0.6頭）と平年並の発生であった。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進み、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本種は海外飛来性であり、梅雨前線に伴う気流によって、中国大陸から飛来する。発生には圃場間差があるため、圃場での発生状況をよく観察すること。

イ 本種は、多くの稲の中期にあたる、夏季に密度最盛期を迎えるため、今後の発生に注意すること。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置されている予察灯への誘殺はまだ確認されていない。また、7月中旬の場内圃場（加西市）での調査や7月上旬の現地調査でも発生は確認されていない。

イ 本種はセジロウンカと同じく気流によって、中国大陸から飛来する。現時点で発生は確認されていないが、気象データを用いた飛来解析からは、飛来に好適な条件が5月～7月2半旬までに10回以上示されており、近隣府県では飛来が確認されているところもある。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件となるが、現時点では、発生を確認できていないので、平年並の発生を予想している。

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、6月以降誘殺が続いており、南あわじ市（淡路農技内）での6月～7月2半旬の合計誘殺数は、150.0頭（同226.8頭）であった。

イ 7月上旬の現地調査では、一部圃場で発生が確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進み、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所である圃場周辺（畦畔等）の除草を行い生息密度の低下を図ること。ただし出穂直前と出穂後の畦畔除草は本田へのカメムシ類の侵入を助長するので避けること。

イ 農薬散布は出穂期以降に実施すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

9 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察圃場（加西市）では発生は確認されていないが、7月中旬の現地調査では、一部地域でわずかに発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、増殖が進み、平年並の発生になると考えられる。

10 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上中旬の調査で発生は確認されていない。

イ 本種はセジロウンカなどと同様に海外から飛来する。今後1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、発生が見られるようになると考えられる。

11 【フタオビコヤガ】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内圃場（加西市）において発生は確認されていない。現地調査でも一部地域での発生にとどまっている。

イ 梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、今後イネの状態は生育に伴い本種の加害好適期を過ぎるが、発生は続くと考えられる。

ナシ

1 【黒斑病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の北部農技（朝来市）の調査及び現地調査では、短果枝の発病葉率0.6%（平年値6.5%）、発育枝の発病葉率0.2%（同2.5%）とやや少ない発生となっている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けによる降雨の減少で、平年並の発生のまま推移すると考えられる。

2 【黒星病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の北部農技（朝来市）の調査及び現地調査で発病は確認されなかった。関係機関の調査では一部の園でやや多い発生を確認しているが、県全体としてはやや少ない発生となっている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量は太平洋側で平年並～多いと予想されている。7月17日に梅雨明けしたが、にわか雨も繰り返し発生しており、本病の発生に助長的であるため、平年並の発生になると考えられる。

3 【シンクイムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 6月のフェロモントラップ（ナシヒメシンクイ）の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）では9.0頭（平年値10.4頭）、朝来市（北部農技内）では1.0頭（同8.8頭）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、地域差はあるが、県全体としては平年並の発生のまま推移すると考えられる。

4 【ハマキムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）に設置しているフェロモントラップ（チャノコカクモンハマキ）の6月の合計誘殺数は、2.0頭（平年値0.7頭）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されているが、本種の最盛期は過ぎており、平年並の発生のまま推移すると考えられる。

5 【ハダニ類】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の朝来市（北部農技）の調査及び現地調査では、寄生葉率6.7%（平年値20.4%）とやや少ない発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇して、ハダニ類の増殖に好適な条件となることから、平年並の発生になると考えられる。

6 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年（発生が少ない年）に該当する。6月のフェロモントラップでの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で45.0頭（裏年の過去5年分平均値45.6頭）、朝来市（北部農技内）では35.8頭（裏年で多発した2019年を除く過去2か年平均値29.7頭）と平年並の誘殺であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されているが、今年度は裏年に該当することから、平年並の発生で推移すると考えられる。

ブドウ

1 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内圃場（加西市）では発病葉率6.6%（平年値1.4%）の発生が確認されている。6月下旬の現地調査では発病葉率1.1%（昨年度0%）とやや多い発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けもしたが、にわか雨も繰り返して発生しており、やや多い発生のまま推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 蔓延が速いのが本病の特徴なので、初発生を認めたらただちに薬剤散布を行う。

イ まだ袋かけを行っていない場合は、速やかに薬剤防除を行う。

ウ 被害葉及び被害落葉は、園内に放置せず適切に処分する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

野菜共通

1 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月のフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で45.9頭（平年値92.9頭）、南あわじ市（淡路農技内）では94.9頭（同134.6頭）であったが、7月以降、誘殺数は増加傾向を示している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、本種の増殖に好適な条件になり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の幼虫は、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月のフェロモントラップ合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で31.0頭（平年値25.7頭）、南あわじ市（淡路農技内）では139.2頭（同80.8頭）であり、7月以降、誘殺数は増加傾向を示している。

イ 6月下旬の現地調査では、発生圃場率28.6%（昨年度33.3%）、被害株率1.0%（同3.4%）であった。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、キャベツ、ピーマン、ナス、レタスをはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【ハイマダラノメイガ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）で実施している誘致植物^{*1}（クレオメ）での調査では、6月上旬から幼虫の発生が見られている。7月以降、寄生花枝率^{*2}は増加傾向を示しており、7月上旬の寄生花枝率は、10.1%（平年値4.9%）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、梅雨明けを迎えて気温が上昇することから、本種の増殖が助長されると考えられる。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 発生盛期である8月中旬～9月下旬頃に育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを想定し、防除に努める。

ウ 幼虫が生長点を食害するため、発生を確認してからの防除では手遅れなので、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

エ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。

オ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 南あわじ市（淡路農技内）に設置している予察灯の6月の合計誘殺数は、チャバネアオカメムシで3.0頭（裏年の過去5年平均値2.2頭）、ツヤアオカメムシでは8.0頭（同15.4頭）であった。7月以降、誘殺数は増加傾向にあり、7月に入ってから、ミナミアオカメムシの誘殺も認められている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、カキ、カンキツ等の果樹類では、被害が発生しやすい状況になっていると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
<http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>